

地域医療連携室

フレンドィーだより

Community medicine cooperation room



H29.3月 正面入口が完成しました



2017
vol.52

H29.5 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

ごあいさつ



院長 竹田 慎一

約5年間にわたって進めてまいりました当院の増改築事業が完成し、本年3月21日にグランドオープンを迎えることができました。工事期間中は、地域の先生方、患者さんとそのご家族、地域住民、工事関係者、職員の皆様の温かいご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今回の増改築工事にあたりまして、新棟には3つのコンセプトを盛り込みました。

1点目は、急性期病院としての機能拡充です。具体的には1階の地域救命センターと放射線・内視鏡部門等の検査部門を隣接させ、また、中央棟4階には手術室と集中治療室を隣接させました。救急医療、周術期に対応する部門を集約させたことにより、重症な患者さんに対してより迅速で的確な対応が可能となりました。

2点目は、災害拠点病院としての機能の充実です。非常用電源容量を増大させ、72時間運転可能な燃料を備蓄し、また、災害時、患者さんをできるだけ多く収容できるように、講堂や外来待合等にも医療ガス設備を整備しました。

3点目は、患者さんを含めた来院者に優しい環境の整備です。空調を部屋単位で管理できるようにし、腎センターと通院治療室では、風や音の少ない室内環境を整えるよう配慮しました。外来待合、会計待合に外来案内表示システムを導入して待ち時間をわかりやすくお示しするとともに、待ち時間を少しでも快適に過ごしていただけるよう、カフェ・イートイン、授乳室等を設け、また、外来待合、中央受付、カフェ・イートインに公衆無線LANを整備しました。病院の周囲には、緩衝緑地や遊歩道を設け、来院の皆様が少しでも心癒されるよう自然景観に配慮しました。正面駐車場には従来の駐車場の約3倍、220台の駐車スペースを確保し、屋根付の歩道を整備するとともに公共バスが乗り入れできるようにしました。

この新しくなった施設・設備を十分に活用し、新川医療圏の基幹病院として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患の5疾病、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療の5事業の拠点としての機能強化をさらに進めてまいりたいと決意しております。今後は、その責任を果たすべく、新しくなったハード面に加え、人材育成や来院者目線で考える医療現場での接遇改善など、ソフト面の充実にも一層力を注ぎ、病院憲章の「日々念心」で努力していく覚悟です。

地域の先生方には引き続き、ご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

がん診療連携パスについて



地域医療支援部 主任部長
消化器外科部長 月岡 雄治

富山県では、平成22年度より「がん診療連携パス」の運用が開始になりました。「がん診療連携パス」(以下、連携パス)とは、かかりつけ医と拠点病院の担当医が協力して、がん患者さんの診療を継続していくための計画表のことです。肺癌、乳癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌の5大癌の患者さんが対象となっています。

平成18年、がん対策基本法が成立しました。増え続けるがん患者さんに対する予防効果の向上、治療成績の向上、患者さんが受けられるサービスの向上、全国どこに住んでいても質の高いがん診療を受けられるように(がん診療の均てん化)等の目的のために、様々な試みがなされています。

がん診療の均てん化を目指して、全国にがん診療拠点病院の整備が行われました。富山県では、都道府県がん診療連携拠点病院に富山県立中央病院、地域がん診療連携拠点病院に黒部市民病院、富山労災病院、富山大学附属病院、厚生連高岡病院、高岡市民病院、市立砺波総合病院の計7病院が国より指定を受けています。これらのがん診療拠点病院は、がん診療の向上やサービス向上のために、ハード面、ソフト面で様々な整備が要求されています。

そのために始まった試みの1つが連携パスです。以前は、大きな病院の外来に患者さんが集中し、待ち時間が長く、診察時間が短い状況でした。そのため、治療や検査結果の説明にあまり時間をかけることができませんでした。そのような事態への反省から、連携パスが生まれてきました。この制度では普段の診察はかかりつけ医にお願いし、定期的に拠点病院での診察とCT等の検査を行うものです(2人の主治医で診ていく体制です)。

がん患者さんは、がんだけを患っている方は少なく、ほとんどの方は高血圧、糖尿病等、様々な薬を飲んでいたり、症状を持っていたりします。それぞれの病院や医院で薬を処方すると、飲み合わせの悪い薬であったり、効能が似た薬が重なったりする弊害が出ます。また、症状が出現して病院に行っても長い時間待たされたり、持病による症状のこともよくあります。まずかかりつけ医の診察を受け、緊急を要する場合やがんに関連した症状が疑われる場合には、かかりつけ医から拠点病院の担当医に連絡をいただいた方が、結果的には時間が無駄になりません。

この制度は日本中で行われており、患者さんからも医療者からも好意的な意見がたくさん出ています。その1つの要因として、患者さんに診療予定を記入した手帳(富山県では「診療手帳とやま」の名前がついています)を渡しています。そして、診療時にはその手帳を持参していただきます。患者さんには「私とかかりつけの先生との交換日記です」と説明しています。手帳を持つことにより、患者さん自身が検査予定や検査結果等を自主的に管理できるようになり、医療者との一体感が出てくるようです。

1冊の手帳を足掛かりに、1人のがん患者さんをかかりつけ医、拠点病院の担当医、そして地域の様々な職種(リハビリ関連職種、薬剤師、看護師、行政等)の方々が支えていけるような制度を作っていけるように努力していきたいと考えています。みなさん宜しくお願いいたします。



平成29年度 新任医師紹介

内科



医員
みやがわ たろう
宮川太郎
専門：内科一般



医員
むらなか えみり
村中絵美里
専門：内科一般



医員
ほり たまたか
堀田正堯
専門：内科一般



医員
うるし はりょう た
漆原涼太
専門：内科一般



医員
はしむこうだい き
橋向大輝
専門：内科一般



医員
まつ おとし き
松尾俊紀
専門：内科一般



外科



医員
かな もと あや こ
金本斐子
専門：外科一般
乳腺外科



医員
なか むら ゆう すけ
中村友祐
専門：外科一般

小児科



医長
なかつ ひさの
中坪久乃
専門：小児科一般



医員
おお た やす たか
太田安孝
専門：小児科一般



医員
ひら い ひろ こ
平井宏子
専門：小児科一般

整形外科



医員
かめ い かつ ひこ
亀井克彦
専門：整形外科一般



医員
ざい もく み ほ
材木美穂
専門：整形外科一般

産婦人科



医員
かわぐち みほ こ
川口美保子
専門：産婦人科一般



医員
やま だ きよ たか
山田清貴
専門：産婦人科一般



皮膚科



医員
きた の たすく
北野 佑
専門：皮膚科一般

耳鼻いんこう科



医員
こばやしえいじ
小林英士
専門：耳鼻咽喉科一般

眼科



医長
やがうちたかあき
矢合隆昭
専門：網膜硝子体
緑内障
眼科一般

麻酔科



医員
まついゆう
松井悠
専門：麻酔科一般

救急科



医員
おしだたつろう
押田達朗
専門：内科一般

臨床研修医2年生



きだにけんと
木谷健人



たかおなおき
高尾直樹

臨床研修医1年生



いし かま な
石坂真菜



すみ たに よう こ
炭谷要子



たか やま のり よ
高山記世



どう まえ けん すけ
堂前謙介



なかざわりょう たろう
中沢僚太郎



の じま こう き
野島晃己



みつ た かず よし
三田和芳



やま が た こう き
山形恒貴



とく の う しょう た
得能翔太



にし ご り た か し
西郡高志



もと お り よう せい
元雄良誠

お知らせ



●医師の異動（4月1日付）

診療科	転出	転入
内科	紺谷 浩一郎 泉田 俊秀 田辺 命 倉田 多鶴子 中川 詩織 — 藤原 秀	橋向 大輝 村中 絵美里 漆原 涼太 宮川 太郎 — 堀田 正堯 松尾 俊紀
小児科	宮尾 成明 荒井 美穂 清水 宗之	中坪 久乃 太田 安孝 平井 宏子
外科	岩田 啓子 —	金本 斐子 中村 友祐
整形外科	二川 隼人 田村 嵩	亀井 克彦 材木 美穂
産婦人科	高地 圭子 才津 義亮	川口 美保子 山田 清貴
皮膚科	澤田 香織	北野 佑
耳鼻いんこう科	—	小林 英士
眼科	山下 陽子	矢合 隆昭
麻酔科	篠田 正浩	松井 悠
救急科	—	押田 達朗

講演・勉強会のご案内

1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日
午後6：30～
午後8：00

場所：中央棟3階 会議室6

2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日（不定期開催）
午後6：45～
午後7：45

場所：中央棟3階 講堂

3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日
午後6：30～

場所：中央棟3階 会議室6